

当塾の教授方針

- 1 中1から高3まで6年間、週1回(高3は2回)の授業で生徒の成長を見守りながら、一人ひとりの性格を把握し個性を尊重し、生徒同士を切磋琢磨させながら英語を好きになって自信がつくように学習させています。教師の私も日々英語を学ぶ仲間であり、英語を学ぶ楽しさは生涯続くことを実感させるようにしています。
- 2 中1から大学入試を視野に入れて教えます。(中1の学習範囲からも大学センター試験に出題されています)
私の指示どおりに学習した生徒さんは、高2終了段階で、大学入試で合格点をとれるようにカリキュラムを組んでいます。具体的には、最終的にどのような分野の長文も深く分析して読めるように**語彙、文法、構文、発音**を中1からたたきこみますが、他塾のように、中1の最初からスピードをあげて大量に文法は教えません。中1・中2で習う英文法はその後の英語力を築く大切な土台になるものなので一生、生徒が覚えておけるように論理的に生徒の納得がいくように時間をかけてじっくり教えます。(例 何故、英語と日本語は語順が違うのか?何故、英語には単数と複数があるのか?何故、時制にこだわるのか?何故、日本語と違って必ず主語が必要なのか?等)
それでも、例年11月中1の範囲は終了しています。
- 3 夏休み後より、語彙テストが始まります。語彙テストは高3の最後まで毎授業でおこないます。目でよく単語を見て、それを正しく発音し、それを聞き、手で数回書いて覚える作業を小さいときから身につかせます。
- 4 春、夏、冬の講習で長文を読ませ設問を解かせた後、一文ずつ詳しく解説をして文法の復習、予習をします。未知の語彙、構文、文法があっても初見の長文を読み進め内容をつかんでいく練習をさせます。講習がある月も正規の授業は通常どおり行います。
- 5 大学受験のためだけでなく、社会に出てからも役に立つコミュニケーションの手段としての英語も伝授しています。(発音記号を教えて正しい発音の仕方を教えます。英字新聞記事、英語ニュース放送、you tube, 映画、音楽などから生徒に教えてあげたいものを毎日探しています。)又、人生の中で一番大切な時期である中学、高校時代に豊かな感性を育んでもらえるように教養としての英語、英米文学、英米史も折にふれ紹介しています。
- 6 英語はひとたび得意になると、生涯そばにいて役に立ってくれる道具になります。得意科目にすると安定して得点でき、他科目をカバーできます。

語学習得に最も必要なものは明晰な頭脳よりも **STICK - TO - IT** iveness です。